

厚生労働大臣 舩添 要一 殿

地方独立行政法人大阪府立病院  
理事長 井上 通敏

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	14 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	106人	68人	152.6人	看護業務補助	5人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	2人	2.0人	理学療法士	3人	臨床検査技師	64人
薬剤師	17人	5人	21.5人	作業療法士	人	衛生検査技師	3人
保健師	4人	人	4.0人	視能訓練士	人	その他	人
助産師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	424人	10人	430.1人	臨床工学技士	2人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	11人	6人	15.8人	栄 養 士	人	その他の技術員	2人
歯科衛生士	人	人	人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	69人
管理栄養士	1人	2人	2.8人	診療放射線技師	34人	そ の 他 の 職 員	99人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	461.8 人	0 人	461.8 人
1日当たり平均外来患者数	1116.8 人	0 人	1116.8 人
1日当たり平均調剤数	入院 523.5剤	外来 102.4剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	①有・無	126人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	人
・カフェイン併用化学療法	有・無	人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	人
・臍腫瘍に対する腹腔鏡補助下臍切除術	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・無	人
・顎顔面補綴	有・無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮筋腫核出術	有・無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
強度変調放射線治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・無	人
インプラント義歯	有・無	人
顎顔面補綴	有・無	人
人工中耳	有・無	人
歯周組織再生誘導法	有・無	人
抗がん剤感受性試験	有・無	人
腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
生体部分肺移植術	有・無	人
活性化血小板の検出	有・無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	①有・無	/ 人
眼底三次元画像解析	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	1人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	2人
・多発性硬化症	9人	・ウェゲナー肉芽腫症	0人
・重症筋無力症	14人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	47人
・全身性エリテマトーデス	1人	・多系統萎縮症	2人
・スモン	1人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	24人	・膿疱性乾癬	0人
・サルコイドーシス	14人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・原発性胆汁性肝硬変	19人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	6人	・重症急性膵炎	0人
・特発性血小板減少性紫斑病	45人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・結節性動脈周囲炎	1人	・混合性結合組織病	2人
・潰瘍性大腸炎	28人	・原発性免疫不全症候群	0人
・大動脈炎症候群	5人	・特発性間質性肺炎	1人
・ビュルガー病	0人	・網膜色素変性症	7人
・天疱瘡	0人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	17人	・原発性肺高血圧症	0人
・クローン病	0人	・神経線維腫症	4人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・悪性関節リウマチ	0人	・バンド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・パーキンソン病関連疾患	37人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	3人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	10人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年10回		
剖検の状況	剖検症例数	34 例	剖検率 20.9 %

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
地域がん登録精度向上と活用に関する研究	津熊 秀明	調査課長	21,000	補委	厚生労働省
保健・医療機関受診者を対象とした禁煙支援方法の開発と評価に関する研究	田中 英夫	疫学課長	10,882	補委	厚生労働省
喉頭機能を温存した頭頸部がんの標準的治療法の確立に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	11,432	補委	厚生労働省
頭頸部がん治療の標準化に関する研究	吉野 邦俊	耳鼻咽喉科主任部長	800	補委	厚生労働省
骨転移の標準的治療指針確立の研究	荒木 信人	整形外科部長	1,200	補委	厚生労働省
臨床病理像からみた早期肺がんの治療法に関する研究	児玉 憲	診療局長	1,200	補委	厚生労働省
がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究	今岡 真義	総長	800	補委	厚生労働省
大腸がん術後感染症予防に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	800	補委	厚生労働省
臨床的予後因子による肝転移予測	大植 雅之	消化器外科副部長	700	補委	厚生労働省
悪性胸膜中皮腫に対する外科治療法に関する研究	東山 聖彦	呼吸器外科主任部長	1,400	補委	厚生労働省
薬物療法に伴う乳がん患者の骨塩量の推移	菰池 佳史	乳腺・内分泌外科医長	1,200	補委	厚生労働省
地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究	淡田 修久	副院長	1,000	補委	厚生労働省
乳房温存法の適応の適正化の検討	稲治 英生	乳腺・内分泌外科主任部長	1,100	補委	厚生労働省
放射治療臨床試験の特殊性に関する研究	田中 英一	放射線治療科医長	1,000	補委	厚生労働省
進行肺がんに対する化学療法	今村 文生	呼吸器内科部長	700	補委	厚生労働省
がん登録における情報ネットワークの活用に関する研究	井岡 亜希子	調査課主査	1,400	補委	厚生労働省
肺がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究	中山 富雄	疫学課参事	1,000	補委	厚生労働省
肺がんの臨床病理学的研究	塚本 吉胤	病理細胞診断科副部長	800	補委	厚生労働省
がん治療におけるIRVの技術向上と標準化に関する研究	杉原 英治	放射線診断科診療主任	500	補委	厚生労働省
狭帯域フィルタ内視鏡装置を用いた拡大観察による陥凹型胃癌の早期診断についての研究	竹内 洋司	消化器内科診療主任	500	補委	厚生労働省
効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度化に関する研究	大島 明	調査部長	25,600	補委	厚生労働省
革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究	鈴木 隆一郎	研究所特別研究員	16,800	補委	厚生労働省
新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断制度の向上に関する研究	中山 富雄	疫学課参事	3,000	補委	厚生労働省
がん医療経済と患者負担最小化に関する研究	中山 富雄	疫学課参事	800	補委	厚生労働省
地域がん登録の法的倫理的環境整備に関する研究	田中 英夫	疫学課長	580	補委	厚生労働省
がん罹患、死亡動向の実態把握の研究	津熊 秀明	調査課長	2,905	補委	厚生労働省
がん検診に有用な新しい腫瘍マーカーの開発	井岡 達也	消化器検診科副部長	2,000	補委	厚生労働省
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	荒木 信人	整形外科部長	1,800	補委	厚生労働省
頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する標準的手術法の確立に関する研究	藤井 隆	耳鼻咽喉科副部長	1,600	補委	厚生労働省
がん患者の心のケア及び医療相談等のあり方に関する研究	柏木 雄次郎	脳神経科部長	200	補委	厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)		補助元又は委託元
浸潤性膀胱がんの予防改善をめざした集学的治療の研究	小野 豊	泌尿器科医長	500	補委	厚生労働省
高度進行胃がんの治療に関する研究	宮代 勲	消化器外科副部長	1,400	補委	厚生労働省
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究	飯石 浩康	診療局長	1,000	補委	厚生労働省
早期前立がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	宇佐美 道之	泌尿器科主任部長	300	補委	厚生労働省
切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科部長	700	補委	厚生労働省
局所限局小細胞肺癌の集学的治療に関する研究	今村 文生	呼吸器内科部長	1,500	補委	厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科部長	600	補委	厚生労働省
大腸がん肝転移症例の術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	1,000	補委	厚生労働省
地域がん診療拠点病院の機能向上に関する研究	津熊 秀明	調査課長	1,000	補委	厚生労働省
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助化学療法に関する研究	大植 雅之	消化器外科副部長	1,000	補委	厚生労働省
臨床病期Ⅲの下部直腸がんに対する側方リンパ節郭清術の意義に関するランダム化比較試験	大植 雅之	消化器外科副部長	1,500	補委	厚生労働省
第Ⅳ期食道がんに対する標準的治療法の確立に関する研究(H17-がん臨床一般-007)	矢野 雅彦	消化器外科副部長	500	補委	厚生労働省
肉腫および悪性中皮腫を標的破壊する腫瘍溶解性ウイルスベクターのシードストックおよび臨床ロットの製造とその安全性・有効性に関する研究	高橋 克仁	研究所病態生理学部門長	18,788	補委	厚生労働省
疾患関連たんぱく質解析研究事業	今岡 真義	総 長	30,000	補委	厚生労働省
輸血後肝炎に関する研究	田中 英夫	疫学課長	10,000	補委	厚生労働省
がんの早期診断および予後診断に役立つ腫瘍マーカーの開発	東山 聖彦	呼吸器外科部長	250	補委	厚生労働省
臨床試験に向けた難治性肉腫標的破壊ウイルスの全構造決定とシードセルストックの作成	高橋 克仁	研究所病態生理学部門長	8,900	補委	文部科学省
染色体の増幅・欠失の網羅的検出解析による多発及び再発肝細胞癌の遺伝子診断の確立	小泉 恭子	研究所免疫学部門特別研究員	900	補委	文部科学省
難治性肉腫および悪性中皮腫に対する標的遺伝子療法の開発	山村 倫子	研究所主任研究員	2,500	補委	文部科学省
核内ドメインへ蛋白をシャトルする新規蛋白MORC3とそのファミリー	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門長	3,200	補委	文部科学省
核内ドメインを制御するMORC3の機能とがん	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門長	2,300	補委	文部科学省
がんの浸潤過程を制御する2つの機構—上皮間葉移行と細胞運動能の調節に関する	伊藤 和幸	研究所生物学部門長	4,200	補委	文部科学省
骨芽細胞の運動制御と臨床応用	伊藤 和幸	研究所生物学部門長	1,700	補委	文部科学省
骨軟部腫瘍の進展に関与する分子SSXを標的とした治療法の開発	吉岡 潔子	研究所生物学部門主任研究員	2,200	補委	文部科学省
mTORシグナルを介した癌の低酸素耐性機構の解析	井上 正宏	研究所生化学部門長	1,400	補委	文部科学省
mTORシグナルの操作による低酸素標的と放射線治療効果の検討	向井 睦子	研究所生化学部門主任研究員	1,300	補委	文部科学省
プロテオーム及びN型糖鎖構造解析を用いた癌転移関連たんぱく質の同定	宮本 泰豪	研究所免疫学部門総括研究員	1,000	補委	文部科学省

計57件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastric Cancer, 9:262-270, 2006	A multicenter retrospective study of endoscopic resection for early gastric cancer.	Iishi H	消化器内科
Digestive Endoscopy (2006) 18 (Suppl. 1), S131-S136	A NOVEL AUTOFLUORESCENCE VIDEOENDOSCOPY IMAGING SYSTEM FOR DIAGNOSIS OF CANCERS IN THE DIGESTIVE TRACT.	Uedo N	消化器内科
GASTRIC CANCER. 9:88-92(2006)	LONGTERM OUTCOMES AFTER ENDOSCOPIC MUCOSAL RESECTION FOR EARLY GASTRIC CANCER.	Uedo N	消化器内科
Endoscopy 2006; 38 (8) : 819-824	A new method of diagnosing gastric intestinal metaplasia: narrow band imaging system with magnifying endoscopy.	Uedo N	消化器内科
Virchows Arch. 2006 ; 449: 652-9	Histological risk markers for non-cardia early gastric cancer : Pattern of mucin expression and gastric cancer.	Uedo N	消化器内科
Aliment Pharmacol Ther. 2006 ; 24 Suppl 4: 71-80.	Helicobacter pylori-induced atrophic gastritis progressing to gastric cancer exhibits sonic hedgehog loss and aberrant CDX2 expression.	Uedo N	消化器内科
J Cancer Res Clin Oncol. 132 : 627-633 (2006)	Expression and prognostic role of RhoA GTPases in hepatocellular carcinoma.	Imanaka K	消化器内科
医学書院、:2006年、257-269	消化器内視鏡ガイドライン	飯石 浩康	消化器内科
消化器内視鏡. 18 (5) :660-664 (2006)	レジデントのための内視鏡診療マニュアル	東野 晃治	消化器内科
消化器内視鏡ガイドライン(第3版)	色素内視鏡ガイドライン	上堂 文也	消化器内科
消化管Network、7巻4号84-85	狭帯域フィルタ内視鏡による咽頭・食道癌の診断	上堂 文也	消化器内科
Journal of Thoracic Oncology. 1(4) :314-318 (2006)	Improved Diagnostic Efficacy by Rapid Cytology Test in Fluoroscopy-Guided Bronchoscopy.	Uchida J	呼吸器内科
Lung Cancer. 53(1) : 91-96 (2006)	Prognostic value of expression of vascular endothelial growth factor and its flt-1 and KDR receptors in stage I non-small-cell lung cancer.	Higashiyama M	呼吸器内科
Clin Lung Cancer. 8(3): 208-213 (2006)	Gemcitabine/carboplatin in a modified 21-day administration schedule for advanced-stage non-small-cell lung cancer.	Imamura F	呼吸器内科
Strahlenther Onkol. 182(12) : 703-707 (2006)	High-Dose-Rate Brachytherapy for Small-Sized Peripherally Located Lung Cancer.	Imamura F	呼吸器内科
Acta Cytol. 50(4) : 444-6 (2006) .	Rapid staining with the modified Gill-Shorr method for reliable, rapid bronchoscopic diagnosis.	Ueno K	呼吸器内科
J Thorac Oncol. 1(4): 314-8 (2006).	Improved diagnostic efficacy by rapid cytology test in fluoroscopy-guided bronchoscopy.	Uchida J	呼吸器内科
Am J Pathol. 2006 Sep;169(3) : 954-66.	B-lymphocyte depletion reduces skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mouse model for systemic sclerosis.	Uchida J	呼吸器内科
日本胸部臨床. 65 (4) :375-384 (2006. 04)	IgG- $\lambda$ 型モノクローナル蛋白血症を認めた肺原発MALTリンパ腫の1例	今村 文生	呼吸器内科
肺癌. 46 (4) :345-352 (2006. 08)	ゲフィチニブ (イレッサ) の非盲検多施設国際共同による長期継続投与試験	今村 文生	呼吸器内科
Intn J Hematol. in press	Donor cell-derived leukemia with t(7;11)(p15;p15) after a cord blood transplantation in a patient with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	Mitsui H	血液・化学療法科
Intn J. Hematol. 84 : 367-376 (2006)	Expression of CD27 on peripheral CD4+ T-lymphocytes correlated with the development of severe acute versus host disease after allogeneic bone marrow transplantation.	Yoshida H	血液・化学療法科
日本化学療法学会雑誌. 54(S-1) : 32-47 (2006)	深在性真菌症患者に対するitraconazole注射薬およびカプセル薬順次投与の有効性	平岡 諱	血液・化学療法科
成人病と生活習慣病・37 : 147-151 (2007)	外来化学療法治療継続中の日常診療注意点	吉田 均	血液・化学療法科
Diseases of the esophagus. 19 : 73-77 (2006)	Prognosis of patients who develop cervical lymph node recurrence following curative resection for thoracic esophageal cancer.	Yano M	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diseases of the Esophagus. 19: 158-163 (2006)	Preoperative chemotherapy for clinically node-positive patients with squamous cell carcinoma of the esophagus.	Yano M	消化器外科
J Am Coll Surg. 202 (1) : 139-45 (2006)	Plasma D-dimer levels show correlation with number of lymph node metastases in patients with esophageal cancer.	Yano M	消化器外科
J Surg Oncol. 93 (6) : 511-515 (2006)	Advantage of pancreaticogastrostomy in detecting recurrent intraductal papillary mucinous carcinoma in the remnant pancreas : A case of successful re-resection after pancreaticoduodenectomy.	Ishikawa O	消化器外科
J Surg Oncol. 93 (5) : 422-8 (2006)	Factors affecting the prognosis of patients with esophageal cancer undergoing salvage surgery after definitive chemoradiotherapy.	Yano M	消化器外科
J Surg Oncol. 93 : 401-409 (2006)	Clinical Significance of the Second Cycle Response to Cisplatin-Based Chemotherapy as Preoperative Treatment for Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Yano M	消化器外科
Hepatology Research. 34 : 124-129 (2006)	A proposal of the modified liver damage classification for hepatocellular carcinoma.	Kasugai H	消化器外科
Int J Cancer. 118 (11) : 2803-2808	Fucosylated haptoglobin is a novel marker for pancreatic cancer : a detailed analysis of the oligosaccharide structure and a possible mechanism for fucosylation.	Ohigashi H	消化器外科
Japan. Cancer Science. 97 (7): 618-622	Population-based study of the relationship between hospital surgical volume and 10-year survival of breast cancer patients in Osaka.	Ishikawa O	消化器外科
Surgery. 139 (6): 749-754 (2006)	Patients with pancreatic intraductal papillary mucinous neoplasms are at high risk of colorectal cancer development.	Eguchi H	消化器外科
Cancer. 107 (11): 2567-2575	Role of intraoperative cytology combined with histology in detecting continuous and skip-type intraductal cancer existence for intraductal papillary mucinous carcinoma of the pancreas.	Eguchi H	消化器外科
Cancer Sci. 97 (11) : 1191-1197	Novel tumor marker REG4 detected in serum of patients with resectable pancreatic cancer and feasibility for antibody therapy targeting REG4.	Eguchi H	消化器外科
Oncogene. 25: 7373-7380 (2006. 06)	Suppression of tumorigenicity, but not anchorage independence, of human cancer cells by new candidate tumor suppressor gene CapG.	Miyashiro I	消化器外科
Hepatology Research. 34 (2006): 124-129	A proposal of the modified liver damage classification for hepatocellular carcinoma.	Sasaki Y	消化器外科
Cancer Science. 97 (9) : 845-853 (2006. 09)	Inactivation of Rho GTPases by p190 RhoGAP reduces human pancreatic cell invasion and metastasis.	Ishikawa O	消化器外科
Cancer Sci. 97 (11) : 1211-1216 (2006. 11)	EphA4 receptor Overexpressed in pancreatic ductal adenocarcinoma promotes cancer cell growth.	Eguchi H	消化器外科
Ann Surg. 244 (5): 771-780 (2006. 11)	Risk of Recurrence in a Long-term Follow-up After Surgery in 417 Patients with Hepatitis B- or Hepatitis C-Related Hepatocellular Carcinoma.	Sasaki Y	消化器外科
J Surg Res. 132 (1) : 130-5 (2006 May)	Bile acid promotes the proliferation of squamous cell carcinoma of the esophagus, independent of its inducing COX-2 expression.	Kishi K	消化器外科
J Surg Oncol. 2006 May 1 ; 93 (6): 477-84.	A prospective trial for avoiding cervical lymph node dissection for thoracic esophageal cancers, based on intra-operative genetic diagnosis of micrometastasis in recurrent laryngeal nerve chain nodes.	Yano M	消化器外科
Life Sci. 2007 Feb 27 ;80(12):1100-8.	Altered expression profiles of clock genes hPer1 and hPer2 in peripheral blood mononuclear cells of cancer patients undergoing surgery.	Yano M	消化器外科
Esophagus. 2007 4: 35-39.	Clinical significance of immunohistochemically detected lymph node micrometastasis in patients with histologically node-negative esophageal carcinoma: a multi-institutional study.	Yano M	消化器外科
Cancer Sci. 97 (11) 1191-1197, 2006	Novel tumor marker REG4 detected in serum of patients with resectable pancreatic cancer and feasibility for antibody therapy targeting REG4.	Eguchi H, Ohigashi H, Ishikawa O	消化器外科
Cancer Res. 67 (6) : 2567-2576, 2007	Oncogenic Role of KIAA0101 interacting with proliferating cell nuclear antigen in pancreatic cancer.	Eguchi H	消化器外科
European Journal of Cancer, 42; 1897-1903, 2006	Prediction of peritoneal metastasis in advanced gastric cancer by gene expression profiling of the primary site.	Motoori M	消化器外科
Int J Oncol. 28: 383-91, 2006	Central genetic alterations common to all HCV-positive, HBV-positive and non-B, non-C hepatocellular carcinoma: a new approach to identify novel tumor markers.	Motoori M	消化器外科
全国自治体病院協議会雑誌. 45 (9) :10-17 (2006. 09)	公立病院の特定機能病院承認に至る道	今岡 真義	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Frontiers in Gastroenterology. 11 (2): 126-132 (2006)	消化器病研究施設紹介：大阪府立成人病センター	今岡 真義	消化器外科
日本臨床. 64 (増1) :254-257 (2006)	術前放射線化学療法	石川 治	消化器外科
日本消化器病学会雑誌. 103 (4) :398-404 (2006)	膵癌診療の進歩	石川 治	消化器外科
肝胆膵. 53 (5) :819-829 (2006. 11)	進行性肝癌の外科的治療	佐々木 洋	消化器外科
消化器画像. 8 (4) :485-488 (2006. 07)	膵管癌切除後5年生存例とその画像—大阪府立成人病センター	大東 弘明	消化器外科
239-244. メディカ出版 (大阪)	膵頭十二指腸切除術	大東 弘明	消化器外科
外科治療. 94 (2) :207-209	周期における体内時計の変化	矢野 雅彦	消化器外科
文光堂 (東京) 179-183 (2006)	肝臓外科の要点と盲点	山田 晃正	消化器外科
外科. 68 (13) :1688-1693	胃癌におけるsentinel node conceptの現状	宮代 勲	消化器外科
癌と化学療法. 33 (12) :1968-1970 (2006)	盲腸癌の腋窩リンパ節転移が疑われたアポクリン腺癌の1例	能浦 真吾	消化器外科
大腸疾患NOW2006. 日本メディカルセンター東京 (2006. 01)	大腸癌の生体内細胞観察—pitpatternの細胞レベル観察とEndo-Cytoscopy Systemの開発	大植 雅之	消化器外科
成人病. 46 (1) :12-16	高齢者の大腸がん治療：客観的なリスク評価とは？	大植 雅之	消化器外科
外科治療. 95 (6) :651-658 (2006)	直腸癌側方リンパ節 郭清の現状と今後	大植 雅之	消化器外科
癌と化学療法. 33 (12) :1938-1940	肝細胞癌術後リンパ節再発に対し、リンパ節摘出術を施行した1例	山田 晃正	消化器外科
癌治療のあゆみ. 26巻 :27-36 (Mar-07)	膵癌切除成績向上を目指した安全且つ効率的な補助療法（肝及び局所再発防止対策）の確立	大東 弘明	消化器外科
手術. 61巻 (1) :63-70 (Jan-07)	一類部両側斜切開アプローチによるリンパ節郭清—	矢野 雅彦	消化器外科
外科治療. 96巻 (3) :249-253 (Mar-07)	術後合併症からみた肥満患者に対する手術手技	矢野 雅彦	消化器外科
日本外科学会雑誌. 108巻 (1) :19-22 (Jan-07)	癌の外科治療におけるインフォームドコンセント 5：肝臓癌	佐々木 洋	消化器外科
膵臓. 21巻 (4) :315-322	科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン	石川 治	消化器外科
The Japanese Journal of Theracic and Cardiorascular Surgery. 54 (5): 193-198 (2006)	Pericardial Effusion Following Pulmonary Resection.	Kodama K	呼吸器外科
Jpn J Clin Oncol. 37 (2): 90-95 (2007)	Surgical Results of Lung Cancer with Sarcoid Reaction in Regional Lymph Node.	Higashiyama M	呼吸器外科
Lung Cancer. 53: 91-96 (2006)	Prognostic value of expression of vascular endothelial growth factor and its flt-1 and KDR receptors in stage I non-small cell lung cancer.	Higashiyama M	呼吸器外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 12 (4): 273-278 (2006)	Mucoepidermoid carcinoma of the thymus treated by multimodality therapy : A case report.	Higashiyama M	呼吸器外科
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg. 54 (7): 289-292 (2006)	Intrapulmonary metastasis developing eighteen years after complete resection of thymoma.	Higashiyama M	呼吸器外科
Int J Cancer. 120 (6) :1355-63 (2007).	Involvement of ribonucleotide reductase M1sudunit overexpression in gemcitabine resistance of human pancreatic cancer. International Journal of cancer.	Okami J	呼吸器外科
Pancreas. 33 (2): 142-147 (2006. 08)	Schedule-dependent therapeutic effects of gemcitabine combined with uracil-tegafur in a human pancreatic cancer xenograft model.	Okami J	呼吸器外科
J Thorac Cardiovasc Surg. 132 (4): 769-775 (2006)	Radical sublobar resection for small-sized non-small cell lung cancer : A multicenter study.	Higashiyama M	呼吸器外科
British Journal of Cancer. 95 (7): 817-821 (2006)	Randomised study of adjuvant chemotherapy for completely resected p-stage I-IIIa non-small cell lung cancer.	Kodama K	呼吸器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Lung Cancer. 54 (1): 208-208 (2006)	Calponin-targeting oncolytic herpes simplex virus (HSV-1) as a novel therapeutic agent for sarcomatous mesothelioma.	Kodama K	呼吸器外科
Oncogene. 25: 7373-7380 (2006)	Suppression of tumorigenicity but not anchorage independence, of human cancer cells by new candidate tumor suppressor gene CupG.	Takami K, Kodama K	呼吸器外科
Clin Cancer Res. 12 (13): 3971-3978 (2006)	Clinical significance of aminopeptidase N in non-small cell lung cancer.	Higashiyama M	呼吸器外科
Surg Today. 37 (4): 316-9 (2007)	Surgical intervention for malignant fibrous histiocytoma of the lung: report of a case.	Maeda J	呼吸器外科
Oncology Report. 17: 1347-1352 (2007)	Expression of the Epstein-Barrvirus in lymphoproliferative diseases of the lung.	Kodama K	呼吸器外科
外科治療. 95 (2): 211-218 (2006)	末梢小型肺癌の診断と治療	東山 聖彦	呼吸器外科
文光堂. 254-256 (2007)	隣接臓器合併切除を伴うT4肺癌の外科治療成績からみた「手術適応症例」とは？	東山 聖彦	呼吸器外科
OPE nursing. 21 (5): 36-39 (2006)	標準開胸下肺葉切除術でつかむ肺外科手術の特徴と助動ポイント	東山 聖彦	呼吸器外科
胸部外科. 60 (1): 19-24 (2007)	全国アンケート調査による本邦の悪性胸膜中皮腫に対する外科治療成績	東山 聖彦	呼吸器外科
日本胸部臨床. 65 (4): 375-383 (2006)	IgG-λ型モノクローナル蛋白血症を認めた肺原発MAL Tリンパ腫の1例	東山 聖彦	呼吸器外科
臨床と研究. 83 (6): 65-68 (2006)	肺・胸膜疾患 Mesotheliomaの胸腔鏡所見	東山 聖彦	呼吸器外科
第6回兵庫大腸癌治療研究会記録集. 6: 23-29 (2006)	大腸癌肺転移外科治療成績からみた適応と手術上の問題点	児玉 憲	呼吸器外科
MOOK肺癌の臨床2005-2006. 261-270 (2006)	Pancoast腫瘍の治療	児玉 憲	呼吸器外科
田辺市医師会だより. 36: 10-14 (2006)	肺癌診療の最前線	児玉 憲	呼吸器外科
日本胸部臨床. 65 (11): S149-S156 (2006)	非小細胞癌の治療 b、縮小手術の現状と課題	児玉 憲	呼吸器外科
成人病. 46 (3): 29-30 (2006)	異型腺腫様過形式 (AAH) の臨床病理像について	児玉 憲	呼吸器外科
文光堂. 271-273 (2007. 01. 07)	呼吸器common diseaseの治療 肺癌のすべて	児玉 憲	呼吸器外科
CT検診. 14 (1): 11-12 (2007)	小型肺がんの診断と治療の展開—外科治療の立場から明確な縮小手術適応基準の確立を目指して	児玉 憲	呼吸器外科
Int J Clin Oncol. 11: 344-359 (2006)	Function-preserving surgery for breast cancer	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer. 13: 145-146 (2006)	Breast-conserving treatment for breast cancer: long-term follow-up results and issues to be solved	Inaji H	乳腺・内分泌外科
Surg Today. 36: 267-269 (2006)	Axillary recurrence after negative sentinel node biopsy in a patient with breast cancer: report of a case	Motomura K	乳腺・内分泌外科
Ann Surg Oncol. 13: 985-989 (2006)	Three-axillary lymph node sampling for the prediction of nonsentinel node metastases in breast cancer patients with sentinel node metastases	Motomura K	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer. 13: 232-235 (2006)	Immunohistochemical evaluation for hormone receptors in breast cancer: a practically useful evaluation system and handling protocol	Komoike Y	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer. 13: 289-299 (2006)	A pilot study of wider use of accelerated partial breast irradiation: intraoperative margin-directed re-excision combined with sole high-dose-rate interstitial brachytherapy	Komoike Y	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer. 14: 9-9 (2007)	The omission of axillary lymph node dissection by sentinel node biopsy	Koyama H	乳腺・内分泌外科
外科治療. 95: 481-485 (2006)	女性化乳房症	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
日本医事新報. 4291: 89-90 (2006)	乳癌の腫瘍マーカーと診断精度	稲治 英生	乳腺・内分泌外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Focus on Oncology. 5 (2006)	乳癌におけるAdjuvant Chemotherapyの動向	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
癌と化学療法. 33: 1423-1429 (2006)	リンパ節転移陽性乳癌に対する術後補助療法としてのCyclophosphamide + Adriamycin + Fluorouracil (CAF療法)とUracil-Tegafur (UFT) + Tamoxifen (UFT+TAM療法)との比較	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
外科治療. 96: 369-372 (2007)	非浸潤性乳管癌	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
コンセンサス癌治療. 6 : 36-37 (2007)	術後薬物療法選択 ; St.Gallenコンセンサス	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
臨床外科. 62: 917-922 (2007)	再発乳癌に対する化学療法	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
「乳腺疾患の臨床」. 金原出版 (東京) 127-131 (2006)	病期分類	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
「乳腺疾患の臨床」. 金原出版 (東京) 207-212 (2006)	乳房温存手術	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
「よくわかる乳癌のすべて」. 永井書店 (大阪) 317-323 (2006)	術前薬物療法	稲治 英生	乳腺・内分泌外科
日本臨床. 64: 475-485 (2006)	センチネルリンパ節生検	元村 和由	乳腺・内分泌外科
金原出版 (東京) 220-225 (2006)	「乳腺疾患の臨床」	元村 和由	乳腺・内分泌外科
中外医学社 (東京) 50-54 (2006)	「再発乳癌診療ハンドブック」	元村 和由	乳腺・内分泌外科
臨床放射線. 31: 273-279 (Jun-05)	組織内照射を用いた乳房温存療法	菰池 佳史	乳腺・内分泌外科
Pharma Medica. 24 (11) :9-14 (2006)メディカルレビュー社 (東京)	長期成績からみた乳房温存療法の長期治療成績と今後の展望	菰池 佳史	乳腺・内分泌外科
日本臨床. 64: 405-408 (2006)	特集:乳癌-序文	小山 博記	乳腺・内分泌外科
日本乳癌検診学会誌. 15: 209-210 (2006)	大都市に見るマンモグラフィー (MMG)検診の問題点	小山 博記	乳腺・内分泌外科
World J Surg Oncol. 5: 27-27 (2007 Mar 6)	Acute adrenal crisis after orthopedic surgery for pathologic fracture.	Naka N	整形外科
J Biol Chem. 281(50): 38941-50, (2006 Dec 15)	Expression of claudin7 is tightly associated with epithelial structures in synovial sarcomas and regulated by an Ets family transcription factor, ELF3	Araki N, Naka N	整形外科
Cancer. 106 (10) : 2233-40 (2006 May 15)	Prognostic significance of Wilms tumor gene (WT1) mRNA expression in soft tissue sarcoma	Naka N	整形外科
整形外科. Jlu-57: P814-817 (2006)	悪性多形性腺腫骨転移の2例	荒木 信人, 中 紀文	整形外科
骨・関節・靭帯. 19-12 : P1121-1126 (2006)	年少例悪性骨腫瘍切除後における脚長差対策のコツと落とし穴	中 紀文	整形外科
皮膚の科学. 5-2: P178-182 (2006)	足底の胼胝内に生じたamelanotic melanoma.	中 紀文, 荒木 信人	整形外科
中部整災誌. 49-3: P683-684 (2006)	Ifosfamideによる滑膜肉腫に対するdormancy therapy	荒木 信人	整形外科
中部整災誌. 50-1: P53-54 (2007)	整形外科領域におけるMRI拡散強調像の意義とその有用性 腫瘍・非腫瘍性病変の鑑別	橋本 伸之	整形外科
中部整災誌. 49-3: P461-462 (2006)	カルチノイド腫瘍の骨転移の3例	荒木 信人	整形外科
成人病. 46-3: P19-20 (2006)	骨・軟部腫瘍におけるSSX遺伝子の発現定量解析-NASBA法を用いて	中 紀文	整形外科
脊椎脊髄ジャーナル. 19巻 8号: Page855-859 (2006)	仙骨部腫瘍性病変 最近の治療方針と手術・再建法・合併症対策】 仙骨部転移性骨腫瘍の治療	荒木 信人	整形外科
Placenta. 27 (8): 912-918 (2006. 08)	STAT3-mediated constitutive expression of SOCS3 in an undifferentiated rat trophoblast-like cell line.	Takeda T	婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Arch Womens Ment Health. 9 (4): 209-212 (2006. 07)	Prevalence of premenstrual syndrome and premenstrual dysphoric in Japanese women.	Takeda T	婦人科
Gynecol Obstet Invest. 63 (4): 188-194 (2006. 11)	Hypoxia Represses the Differentiation of Rcho-1 Rat Trophoblast Giant Cells.	Takeda T	婦人科
Placenta. (2007. 02)	Involvement of Sp-1 in the Regulation of the Id-1 Gene during Trophoblast Cell Differentiation.	Takeda T	婦人科
Int J Gynecol Cancer. 17 (1): 159-163 (2007. 01)	Phase II study of irinotecan plus doxorubicin for early recurrent or platinum-refractory ovarian cancer: interim analysis.	Kamiura S	婦人科
Medical Science Digest. 32 (4): 21-24 (2006.04)	ビスフォスフォネートによる骨転移の治療 Bisphosphonates is the Treatment of Skeletal Metastases.	森重 健一郎	婦人科
株式会社 ライフ企画 (神奈川県) . p244 (2007. 03. 18)	女性の癌, 泌尿器癌	上浦 祥司	婦人科
BJU INTERNATIONAL. 98 : 573-579 (2006)	E f f icacy of primary hormone therapy for localized or locally advanced prostate cancer :results of a 10-year follow-up.	Usami M	泌尿器科
International Journal of Urology. 13: 1494-1500 (2006)	E f f icacy of primary hormonal therapy for patients with localized and locally advanced prostate cancer :A retrospective multicenter study.	Usami M	泌尿器科
Journal of Urology. 176 : 47-49 (2006)	The Case for Androgen Deprivation as Primary Therapy for Early Stage Disease: Results From J-CaP and CAPSURE™.	Usami M	泌尿器科
Jpn J Clin Oncol. 36(12) : 789-793 (2006)	Japanese Study Group for Locally Advanced Prostate Cancer A Randomized Trial Comparing Radical Prostatectomy Plus Endocrine Therapy versus External Beam Radiotherapy Plus Endocrine Therapy for Locally Advanced Prostate Cancer :Results at Median Follow-up of 102 Months.	Usami M	泌尿器科
Ann Nucl Med. 20: 325-328 (2006)	A case of malignant pheochromocytoma with early intense uptake and immediate rapid washout of 99mTc-tetrofosmin characterizing the overexpression of anti-apoptotic Bcl-2.	Kinouchi T	泌尿器科
J Cancer Res Clin Oncol. 132: 499-504 (2006)	Prospective randomized trial of natural interferon-alpha versus natural interferon-alpha plus cimetidine in advanced renal cell carcinoma with pulmonary metastasis.	Kinouchi T,	泌尿器科
Int J Clin Oncol. 11: 434-440 (2006)	A low dose combination therapy of interleukin-2 and interferon- $\alpha$ is effective for lung metastasis of renal cell carcinoma:a multicenter open study.	Kinouchi T	泌尿器科
Urology View. 4 (1) : 54-61 (2006)	海外での新治療の動向	宇佐美 道之	泌尿器科
癌の臨床. 52: 541-545 (2007)	オンコロジストに求められる緩和ケア	目黒 則男	泌尿器科
Expert Nurse. 22: 16-18 (2006)	経皮吸収型持続性疼痛治療剤の正しい使い方、ここがポイント	目黒 則男	泌尿器科
Medicament News. 1884 : P2-4 (2006)	緩和ケアチームの在り方を模索 内外のコミュニケーションの透明性を図る	目黒 則男	泌尿器科
がんサポート. 31: 56-61 (2006)	がんの痛みをなくす最前線レポートpart3	目黒 則男	泌尿器科
臨床泌尿器科. 60 (8) : 535-539 (2006)	骨盤内転移例の膀胱全摘除術	小野 豊、	泌尿器科
泌尿器外科. 20(2) : 125-132 (2007)	精巣腫瘍の予後	垣本 健一	泌尿器科
泌尿器科紀要. 53: 113-115 (2007)	腎リンパ管腫の1例	木内 利明	泌尿器科
Radiology Frontier. 9 (3) : 68-70 (2006)	「当院における高線量率前立腺組織内照射 (192I-HDR ISBT) 治療経験と工夫」	河嶋 厚成	泌尿器科
西日本泌尿器科別冊. 68(4) : 156-158 (2006)	「嚢胞性腎盂尿管炎の1例」	河嶋 厚成	泌尿器科
西日本泌尿器科別冊. 68 (10) : 480-482 (2006)	「前立腺生検時に発見された膀胱腫瘍の検討」	河嶋 厚成	泌尿器科
Heart Lung Circ. 15(2) : 139-142 (2006. April)	Sildenafil as adjunct therapy to high-dose epoprostenol n a patient with pulmonary veno-occlusive disease.	Masaki M	循環器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circ J. 71(3) : 367-369 (2007. Mar)	Effect of bosentan on plasma endothelin-1 concentration in patients with pulmonary arterial hypertension.	Masaki M	循環器内科
36(1-2) 69-74 2006	Beneficial effect of interferon-beta treatment in patients with multiple sclerosis is associated with transient increase in serum IL-6 level in response to interferon-beta injection	Funauchi M	脳循環内科
神経免疫学第14巻1号 51	多発性硬化症のIFN-β療法に関する血清サイトカインの解析 神経免疫学	船内 正裕	脳循環内科
第8回 国際神経免疫学会抄録第1巻	Beneficial effect of interferon-β treatment in patients with multiple sclerosis is associated with transient increase in serum IL-6 level in response to interferon-β injection	Funauchi M	脳循環内科
European Journal of Radiology 58 (2006) 435-443	MRI and CT findings of the giant cell tumors of the skull.	Kashiwagi N	放射線診断科
Radiology Frontier 9 : 283-288, 2006	CTによる肺癌の縦隔・肺門のリンパ節転移診断	小山 光博	放射線診断科
Radiology Frontier 9 : 289-293, 2006	CT,MRIによる頭頸部のリンパ節転移診断	柏木 伸夫	放射線診断科
日獨医報 51 : 508-514, 2006	ヨード造影剤使用における患者への説明と同意	鳴海 善文	放射線診断科
Jpn. J. Medical Ultrasonics. 33 : 591-592 (2006. 09)	Guidelines for image presentation and measurement of the ophthalmic region (proposal) .	Tanaka S	検診部
Digestive Endoscopy. 18 : 578-581 (2006)	Cytological criteria of pancreatic juice in intraductal papillary mucinovs neoplasms.	Makaizumi A	検診部
超音波医学. 33 : 589-590 (2006. 10)	眼科領域の画像表示計測のためのガイドライン(案)	田中 幸子	検診部
月刊 新医療. (377) :53-55 (2006. 05)	超音波の最前線と明日への期待	田中 幸子	検診部
大津医学生会誌. (30) :15-16 (2006.04)	超音波でこんなことがわかる -がんの早期診断を中心に	田中 幸子	検診部
Modern Physician. 26 (3) :463-468 (2006)	US, MRCP, ERCPによる膵管像と膵液細胞診	中泉 明彦	検診部
胆と膵. 27 (3) 131-134 (2006)	膵癌検診システムにおける高危険群	中泉 明彦	検診部
臨牀消化器内科. 21 (13) 1725-1730 (2006)	検診による膵癌早期診断	中泉 明彦	検診部
診断と治療. 95 (3) :377-382 (2007. 03)	身近にある胆膵疾患	中泉 明彦	検診部
Modern Physician. 26(5) : 888-896 (2006. 05)	超音波でここまでわかる膵がん診察	田中 幸子	検診部
耳鼻臨床. 99 (4) :313-318 (2006)	咽頭非定型カルチノイド例	宇和 伸浩	耳鼻咽喉科
耳鼻臨床. 99 (3) :177-180 (2006)	診察の質の向上に役立つ画像診断の知識 -頭頸部領域-	藤井 隆	耳鼻咽喉科
ENTONL. (70) :40-47 (2006)	舌癌の治療 -標準的治療-	藤井 隆	耳鼻咽喉科
日気食会報. 57 (2) :125-129 (2006)	当科における頸部食道癌の手術治療経験	赤羽 誉	耳鼻咽喉科
臨床腫瘍プラクティス. 2 (3) :294-296 (2006)	嚥下障害とその対策-下咽頭がん	赤羽 誉	耳鼻咽喉科
ライフ・サイエンス・センター (横浜) 刊、143-145, 2006.	ここまでわかってきた最新の生活習慣病健診と対策のすべて - 診断からフォローアップまで	中島 弘	臨床検査科
ライフ・サイエンス・センター (横浜) 刊、234-236, 2006.	ここまでわかってきた最新の生活習慣病健診と対策のすべて - 診断からフォローアップまで	中島 弘	臨床検査科
別冊医学のあゆみ 「NAFLDのすべて」, 77-81, 2006.	NAFLDとNASHにおける高尿酸血症とメタボリックシンドロームのインパクト	中島 弘	臨床検査科
Medical Practice 23(1) : 155, 2006.	メタボリックシンドロームの落とし穴Q&A	中島 弘	臨床検査科
Medicament News 1865 : 12-14, 2006.	メタボリックシンドロームの臨床指標としての尿酸値の意義: バイオマーカーとしての新しい観点	中島 弘	臨床検査科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
CLINIC BAMBOO 301 : 76-77, 2006.	「安楽死」問題に対する医療倫理面からの考察：今求められているアドバンスディレクティブの法制化	中島 弘	臨床検査科
日本医事新報 4282 : 90-91, 2006.	高尿酸血症・痛風の鑑別と治療	中島 弘	臨床検査科
Medical Practice 23(7) : 1258, 2006.	治療戦略を想定した高尿酸血症の臨床分類の考え方	中島 弘	臨床検査科
臨床と研究 83(7) : 1016-1019, 2006.	尿酸代謝と病因	中島 弘	臨床検査科
Medical Practice 23(8) : 1441, 2006.	うつ状態と自己決定	中島 弘	臨床検査科
臨床麻酔. 30: 947-951 (2006. 6)	高リスク患者の肺血栓塞栓症予防対策	岸 義彦	中央手術科
麻酔. 55: 431-435 (2006. 4)	周術期肺血栓塞栓症予防対策-第2報：1万症例を経験して-	岸 義彦	中央手術科
Vet Immunol Immunopathol. 2006 : 114(1-2): 37-48, 2006	Generation of canine dendritic cells from peripheral blood monocytes without using purified cytokines	Akazawa T	研究所分子遺伝学部門
Blood 108 (13): 4232-4236, 2006	Molecular basis of clonal expansion of hematopoiesis in two patients with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria (PNH).	Inoue N	研究所分子遺伝学部門
Proc Natl Acad Sci U.S.A .104(1): 252-257, 2007	Antitumor NK activation induced by the Toll-like receptor 3-TICAM-1 (TRIF) pathway in myeloid dendritic cells.	Akazawa T	研究所分子遺伝学部門
Molecular Immunology 44 (9) : 2257-2264, 2007	Protein kinase C $\delta$ binds TIRAP/Mal to participate in TLR signaling.	Inoue N	研究所分子遺伝学部門
Mol. Biol. Cell. First Published on March 1. 10.1091/mbc.E06-08-0747, 2007	Regulation of p53 PML-nuclear body localization and cellular senescence by MORC3.	Inoue N	研究所分子遺伝学部門
Surgery Frontier. 13(3) :71-74. 2006.09	TLRリガンド	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門
Cancer Sci. 97: 848-853, 2006	Inactivation of Rho GTPases by p190 RhoGAP reduces human pancreatic cancer cell invasion and metastasis.	Inoue M	研究所生化学部門
Int J Oncol. 29: 217-23, 2006	Inhibition of transendothelial migration and invasion of human breast cancer cells by preventing geranylgeranylation of Rho.	Inoue M	研究所生化学部門
Biochem Biophys Res Commun. 346: 74-82, 2006	RhoC is essential for TGF- $\beta$ 1-induced invasive capacity of rat ascites hepatoma cells.	Inoue M	研究所生化学部門
J. Biol. Chem. 2007 Jun 22 : 282(25): 18173-18181.	Up-regulation of Loricrin Expression by Cell Adhesion Molecule Nectin-1 through Rap1-ERK Signaling in Keratinocytes.	Miyoshi J	研究所分子生物学部門
Mol. Cell Biol. 2007 Jun : 27(12): 4388-4405.	Synaptic scaffolding molecule $\alpha$ is a scaffold to mediate N-methyl-D-aspartate receptor-dependent RhoA activation in dendrites.	Miyoshi J	研究所分子生物学部門
Mol. Biol. Cell 2007 May : 18(5): 1701-1709.	Dynamic regulation of p53 subnuclear localization and senescence by MORC3.	Miyoshi J	研究所分子生物学部門
分子細胞治療. 6 (3) : 125-130(2007. 6. 1)	ES細胞からの卵子分化誘導	三好 淳	研究所分子生物学部門
Cancer Sci. 97(4): 259-270 (2006)	Wilms' tumor gene WTI 17AA(-)/KTS(-) isoform induces morphological changes and promotes cell migration and invasion in vitro	Itoh K	研究所生物学部門
Histochem. Cell Biol. 126 : 627-638(2006)	A role of LIM kinase 1/cofilin pathway in regulating endocytic trafficking of EGF receptor in human breast cancer cells.	Yoshioka K	研究所生物学部門
Clin. Orthop. Relat. Res 453 : 318-327(2006)	Dendritic Cell Immunotherapy is Effective for Lung Metastasis from Murine Osteosarcoma.	Itoh K	研究所生物学部門
Exp. Cell Res. 312:3297-3938 (2006)	Bone morphogenetic protein-2 promotes the haptotactic migration of murine osteoblastic and osteosarcoma cells by enhancing incorporation of integrin $\beta$ 1 into lipid rafts.	Yoshioka K	研究所生物学部門
Eur J Cancer. 42: 1897-1903 (2006)	Prediction of peritoneal metastasis in advanced gastric cancer by gene expression profiling of the primary site.	Kato K	研究所免疫学部門
BMC Genomics. 7: 190 (2006)	A multi-class predictor based on a probabilistic model: application to gene expression profiling-based diagnosis of thyroid tumors.	Kato K	研究所免疫学部門



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Oncol. 28: 383-391 (2006)	Central genetic alterations common to all HCV-positive, HBV-positive and non-B, non-C hepatocellular carcinoma: A new approach to identify novel tumor markers.	Kato K	研究所免疫学部門
Breast Cancer Res Treat. 101 : 305-315 (2007)	Possible involvement of CCT5, RGS3, and YKT6 genes up-regulated in p53-mutated tumors in resistance to docetaxel in human breast cancers.	Kato K	研究所免疫学部門
Biochem Biophys Res Commun. 352: 579-586 (2007)	Evaluation of laser microdissection as a tool in cancer glycomic studies.	Miyamoto Y	研究所免疫学部門
Oncology Rep. 17: 225-232 (2007)	Induction of apoptosis in an estrogen-responsive mouse Leydig tumor cell by leukotriene	Nishizawa Y	研究所病理学部門
日本気管食道学会会報. 57: 413-419 (2006)	早期食道癌の病理	西澤 恭子	研究所病理学部門
癌と非癌の鑑別：病理の立場から・胃と腸. 41: 165-175 (2006)	食道ヨード不染帯の鑑別診断	西澤 恭子	研究所病理学部門
日本耳鼻咽喉科感染症研究会誌. 24: 157-164 (2006)	気管支喘息患者中BudesonideとFluticasone propionate吸入療法時の食道Candida症の検出率の前向き比較検討	西澤 恭子	研究所病理学部門
耳鼻咽喉科展望. 49補1 : 20-31 (2006)	臭化オキトロピウム先行吸入、非先行吸入時ブデソニド・タープヘラ-使用時の気管支喘息患者、自・他覚症状、末梢気道抵抗因子の前向き無作為比較検討	西澤 恭子	研究所病理学部門
Biochem. Biophys. Res. Commun. 350 : (315-321) 2006	Loss of HB-EGF in smooth muscle endothelial cell lineages causes heart malformation	Takahashi K	研究所病理生理学部門
J. Physiol. (London) 577 : (1033-1042) 2006	Effects of h1-calponin ablation on the contractile properties of bladder versus vascular smooth muscle in mice lacking	Takahashi K	研究所病理生理学部門
Cancer Sci. 98 : (757-763) 2007	Loss of smooth muscle calponin results in impaired blood vessel maturation in the tumor-host microenvironment	Takahashi K	研究所病理生理学部門
成人病46 : (33-39) 2006	中皮腫破壊ウイルスの開発	高橋克仁、山村倫子	研究所病理生理学部門
Journal of Korean Association of Cancer Prevention, 2006 : 11(2) : 85-88.	Increasing Needs of National Policy for Nicotine Dependence Treatments as a Part of Tobacco Control.	Oshima A	調査部
JJCO 36: 602-607, 2006	Survival of Cancer Patients Diagnosed between 1993 and 1996: a Collaborative Study of Population-Based Cancer Registries in Japan.	Tsukuma H	調査部
Cancer Science, 96: 684-688, 2006.	Mortality, and Survival in a Metropolitan Area of Japan; a Cross-Sectional Ecological Study.	Tsukuma H	調査部
Cancer Science, 97: 283-291, 2006.	Cervical and corpus cancer survival disparities by socioeconomic status in a metropolitan area of Japan.	Tsukuma H	調査部
J Occup Health. 48:175-182(2006)	Effectiveness of a Low-Intensity intra-worksite intervention on smoking cessation in Japanese employees: a three year intervention trial.	Tanaka H	調査部
Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 7:46-50(2006)	5-year survival rates for primary cancer sites at cancer-treatment-oriented hospitals in Japan.	Tanaka H	調査部
Atherosclerosis. 190:216-223 (2006)	The relationship between serum total cholesterol and all-cause or cause-specific mortality in a 17.3-year study of a Japanese cohort.	Tanaka H	調査部
Jpn J Clin Oncol. 37:193-196 (2007)	Distinctive Change in Male Liver Cancer Incidence Rate between the 1970s and 1990s in Japan: Comparison with Japanese-Americans and US Whites.	Tanaka H	調査部
治療 2006; 88: 2452-2454	禁煙治療制度化の意義と今後の課題	大島 明	調査部
公衆衛生 2006; 70: 784-787	たばこ規制推進における禁煙治療の位置づけと今後の課題	大島 明	調査部
EBMジャーナル 特集「検診の有効性-エビデンスと論争点」、2007;8:164-170	医療制度改革の中の検診	大島 明	調査部

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
公衆衛生 特集「メタボリックシンドローム-現状と課題-」2007;71:222-225	メタボリックシンドローム対策と禁煙支援	大島 明	調査部
メディカルサイエンス・インターナショナル、東京、2006	がんのベーシックサイエンス 第3版	大島 明	調査部
大阪府がん登録よりー。頭頸部癌32(3): 292-299, 2006	わが国におけるがん罹患動向と頭頸部がん	津熊 秀明	調査部
成人病46: 2-3, 2006	高齢者のがんの実態と今後	津熊 秀明	調査部
産婦人科の実際55(10): 1479-1483, 2006	子宮頸癌罹患の動向	井岡 亜希子	調査部
大阪保険医雑誌 28-33, 2006.	大阪府におけるがんの罹患、死亡の特徴-大都市圏(東京都、神奈川県、愛知県)と比較して	井岡 亜希子	調査部
JACR MONOGRAPH No.12 ; 44-46.2007	大阪府におけるがんの罹患と死亡の動向-がん医療・がん対策は成果を挙げているか	津熊 秀明	調査部
癌の臨床52; 485-492. 2006	地域のがんの罹患・生存率の実態	津熊 秀明	調査部
兵庫県医師会医学雑誌49 ; 61-66.2007	がん発生の動向と一次予防	津熊 秀明	調査部
日本公衆衛生雑誌. 53 (6) :391-397 (2006)	地域がん登録事業におけるがん患者の予後情報の把握と提供をめぐる法的、実務的課題	田中 英夫	調査部
厚生 の 指 標 . 53 (7) :16-23 (2006)	地域がん登録事業におけるがん患者の登録拒否に関する法的、実務的、倫理的検討	田中 英夫	調査部
臨床消化器内科. 21 (7) :771-777 (2006. 05)	日本における肝癌の疫学動向	田中 英夫	調査部
EB NURSING. 7 (1) :54-57 (2006. 12)	周術期の禁煙	田中 英夫	調査部
日本アルコール・薬物医学雑誌. 41 (6) :480-487 (2006)	アルコール摂取と消化器癌の疫学	田中 英夫	調査部
診療と新薬 44 (3) :283-297 (2007)	効果的な禁煙の方法は?	田中 英夫	調査部
胸部CT検診 13 (2) :125-128 (2006)	胸部CT検診に読影認定試験は必要か?	中山 富雄	調査部
日本胸部臨床. 65: S 102-S 106	肺癌検診の問題点	中山 富雄	調査部
肺癌 46 (7) :871-876 (2006)	低線量CT肺癌検診の有効性評価	中山 富雄	調査部
肺癌 46 (1) :75-78 (2006)	末梢性肺野病変に対する呼吸器細胞診の意義	中山 富雄	調査部
がん臨床・生物統計研究会誌. 26 (1) :44-49 (2006)	地域住民を対象としたがん検診に関するニーズ調査	中山 富雄	調査部
治療 増刊号 88 :1004-1007 (2006)	肺がん検診を受けると、肺がん死亡率を減らせるのか?	中山 富雄	調査部
日本臨床細胞学会大分県支部会誌 17 : 18-23 (2006)	擦過細胞診による肺門部扁平上皮癌・境界病変について	中山 富雄	調査部
CT検診 13(3) : 225-230 (2006)	有効性評価に基づく肺がん検診ガイドラインの作成	中山 富雄	調査部

計257件

## (様式第12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 石川 治
管理担当者氏名	マネージャー 高田哲男、同 三宅茂行、薬局長 榎 喜恵、医療情報部長 松永 隆、放射線診断科部長 高島庄太夫

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		医療情報部、中央手術室、看護部、放射線診断科、各診療科、病歴管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>カルテ等病歴資料は、外来・入院別に患者一カルテ方式とし、一つのID番号により病歴管理室で集中管理を行っている。</li> <li>エックス線写真は、放射線診断科で集中保管している。</li> </ul>
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務人事G	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事管理システムで保管</li> </ul>
	高度の医療の提供の実績	医療情報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ管理他</li> </ul>
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務人事G	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度毎にファイルに綴じて保管</li> </ul>
	高度の医療の研修の実績	総務人事G	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度毎にファイルに綴じて保管</li> </ul>
	閲覧実績	医事G	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度毎にファイルに綴じて保管</li> </ul>
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事G	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携情報をファイルに綴じて保管</li> </ul>
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画G 薬局	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療情報をファイルに綴じて保管</li> <li>調剤情報をファイルに綴じて保管</li> <li>麻薬等台帳を保管</li> </ul>
確規保則の第9条の2及び第11条各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	専任1名	平成16年5月配置
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	専任1名	業務1/2 概ね午前看護業務、午後感染業務
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	専任1名 兼任4名	平成16年10月設置
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	看護師1名、ケースワーカー2名、医事担当職員	医師、看護師、薬剤師を含む患者総合相談ネットワークの設置
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	「医療に係る安全管理のための指針」	平成16年5月制定
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	20回	医療事故発生時の速やかな救命治療活動及び原因究明・再発防止策の立案等
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	8回	CVカテーテル挿入の実際と注意点等
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療事故等の報告の改善</li> <li>インシデント報告の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年4月から「医療事故等報告書」を無記名式に改訂</li> <li>平成18年3月から「インシデント報告システム」をコンピュータ入力に変更</li> </ul>

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 石川 治
閲覧担当者氏名	医療情報部長 松永 隆、医事リーダー 松村 卓
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ (閲覧場所) 医療情報部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延		件
	歯科医師	延		件
	国	延		件
	地方公共団体	延		件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	90.7%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		7,117 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,762 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		197 人
	D: 初診の患者の数		8,866 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	① (有) (1名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	② (有) (1名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	③ (有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (4) 名</li> <li>・ 活動の主な内容： インシデント報告書の分析・再発防止策の策定、医療安全管理委員会事務局業務、医療審議委員会事務局業務、担当医療安全管理者会議の運営、医療安全研修の企画・実施、医療安全管理マニュアルに関すること</li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④ (有) ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	⑤ (有) ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： 医療安全管理に係る基本的な考え方、医療安全管理のための委員会等組織に関する基本的事項、医療安全管理のための職員研修に関する基本方針、医療事故等報告制度、医療事故発生時の対応、指針の閲覧に関する基本的な考え方</li> </ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 20回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： 医療事故、インシデント等が発生した場合の情報収集及び患者等への対応、重大な医療事故発生時の速やかな救命治療活動及び発生原因の分析・再発防止策の立案、指針の作成・見直し、医療安全管理マニュアルの作成・見直し</li> </ul>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： AED講習、アレルギーとアナフィラキシーショック、ACLS講習、採血ガイドラインの改正点と安全管理、CVカテーテル挿入の実際と注意点、医療者の法律力と対話力を高め患者の安全を守る</li> </ul>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ⑧ (有) ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤食物禁忌登録システム稼働、ヨード禁患者にICG (ジアグノグリーン) を投与できないシステムに改善、注射指示箋に患者個々の身長・体重・体表面積を表示、注射指示箋に抗がん剤mg表記にあわせml・瓶表示を行う、注射ラベルを全患者に発行</li> </ul>	